

政策評価調書（個別票1）

【政策ごとの予算額等】

政策名		遺棄化学兵器廃棄処理事業の推進			評価方式	総合・実績・事業	番号
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度概算要求額	
予算 の 状 況	当初予算（千円）	15,464,307	13,922,298	18,361,707	21,922,386	23,053,597	
	補正予算（千円）	-4,514,182	-2,463,279	-4,927,517	0		
	繰越し等（千円）	8,451,000	2,477,588	5,790,149			
	計（千円）	19,401,125	13,936,607	19,224,339			
執行額（千円）		11,929,643	6,651,350	13,595,141			
達成すべき目標及び 目標の達成度合いの 測定方法		<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度計画の発掘・回収対象範囲に対する実施面積の割合/事前に計画されている実施面積のうち、平成22年度発掘回収において達成できた面積を積算する。 発掘回収事業実施後の総括会議等における日本側の取組に対する中国側の評価/総括部会等において、敦化市蓮花泡における発掘回収事業に対する中国側の評価がどのようなものであったのか、記載する。 					
政策評価結果を受けて 改善すべき点		<ul style="list-style-type: none"> 遺棄化学兵器処理事業は、平成22年10月から南京において、移動式処理設備により、最初の廃棄作業が開始され、遺棄化学兵器処理事業が発掘・回収から廃棄という新たな段階を迎えたところ。 同事業の実施に当たっては、政策評価結果を踏まえつつ、安全面に十分に配慮しつつ、迅速かつ確実な事業促進を図っており、平成23年9月末まで、特段の問題なく廃棄作業が行われている。 今後とも、化学兵器禁止条約に基づきつつ、事業の安全性に十分に配慮するとともに迅速かつ確実な事業促進を図るべく、中国北部にも移動式処理設備の新規導入や、吉林省ハルバ嶺における試験廃棄処理作業に向けた所要の準備を引き続き実施していくこととしている。 					
政策評価結果の予算概算要求等 への反映状況		<ul style="list-style-type: none"> 事業の適正な実施と透明性の向上を図るための有識者会議を開催するため、平成20年度予算から所要の経費を計上（平成24年度概算要求：686千円[22年度：1,164千円]） 専門的な知識と経験を必要とする業務のための事業参与（非常勤）採用のため、平成20年度予算から所要の経費を計上（平成24年度概算要求：115,773千円[22年度：72,940千円]） 					

政策評価調書(個別票2)

【政策に含まれる事項の整理】

政策名	遺棄化学兵器廃棄処理事業の推進					番号			(千円)	
	予 算 科 目						予 算 額			政策評価結果の反映による見直し額合計
	整理番号	会計	組織/勘定	項	事項	23年度 当初予算額	24年度 概算要求額			
対応表において●となっているもの	A	1	一般	内閣本府	遺棄化学兵器廃棄処理事業費	遺棄化学兵器廃棄処理事業に必要な経費	21,922,386	23,053,597		
	A	2								
	A	3								
	A	4								
	小計						21,922,386	23,053,597		
対応表において◆となっているもの	B	1								
	B	2								
	B	3								
	B	4								
	小計						の内数	の内数		
対応表において○となっているもの	C	1					<	>	<	>
	C	2					<	>	<	>
	C	3					<	>	<	>
	C	4					<	>	<	>
	小計						の内数	の内数		
対応表において◇となっているもの	D	1					<	>	<	>
	D	2					<	>	<	>
	D	3					<	>	<	>
	D	4					<	>	<	>
	小計						の内数	の内数		
合計						21,922,386	23,053,597			

平成22年度内閣府本府政策評価書(事後評価)

(内閣府22-5(政策4-施策①))

施策名	化学兵器禁止条約に基づく遺棄化学兵器の発掘・回収[政策4. 遺棄化学兵器廃棄処理事業の推進]							
施策の概要	旧日本軍の遺棄化学兵器は、未だに中国の各地から発見されている。我が国は、化学兵器禁止条約上の義務を履行するため、これらの遺棄化学兵器が発掘された場合、速やかに発掘・回収を行っている。							
達成すべき目標	平成9年に発効した化学兵器禁止条約に基づいて行われる、旧日本軍の遺棄化学兵器の発掘・回収を着実にを行い、それらの処理に向けた作業を推進する。							
施策の予算額・執行額等	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求額	
	予算の状況(千円)	当初予算(a)	2,441,567	2,860,300	4,208,789	3,701,669	3,274,839	6,343,812
		補正予算(b)	△ 655,175	-	-	△ 3,147,226	-	
		繰越し等(c)	-	-	-	3,632,284	-	
		合計(a+b+c)	1,786,392	2,860,300	4,208,789	4,186,727	3,274,839	6,343,812
執行額(千円)	1,778,655	2,549,315	2,488,803	3,700,357				
施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	施政方針演説等の名称	年月日		関係部分(抜粋)				
	第174回国会 川端大臣所信表明	平成22年3月9日		中国における遺棄学兵器処理事業については、最初の廃棄処理に向け取り組みを進めて参ります。				

測定指標	平成22年度計画の発掘・回収対象範囲に対する実施面積の割合	基準値	実績値					目標値
		-	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	-
		-		48.7%	100%	87.7%	100%	-
	年度ごとの目標値		100%	100%	100%	100%		
	発掘・回収事業実施後の総括会議等における日本側の取組に対する中国側の評価	基準値	実績値					目標値
		-	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	-
-			肯定評価	肯定評価	肯定評価	肯定評価	-	
年度ごとの目標値		肯定評価	肯定評価	肯定評価	肯定評価			

施策に関する評価結果	目標の達成状況	平成22年度においても敦化市蓮花泡における発掘回収事業を着実に進めており、目標を達成することができたと考えている。
	目標期間終了時点の総括	<p>【目標の達成状況の検証】 当事業は、化学兵器禁止条約上の義務であり、人の安全を確保し環境を保護することを最も優先させつつ、中国側の協力を得ながらすすめることとなっており、平成22年度についても、中国側と緊密に連携をとりながら、当初の予定どおり安全に事業を実施できた。</p> <p>【今後の方向性】 今後、廃棄処理という新しい作業が本格化することから、これまでの知見・ノウハウを活かし、知見のある人材の積極的な活用等を通じて、引き続き中国側と緊密な連携をとりながら、「安全かつ確実な化学兵器禁止条約の履行」という課題に取り組むことを考えている。また、当室ホームページの多言語化等をはかっているところ。</p>

学識経験を有する者の知見の活用	<ul style="list-style-type: none"> 第4回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議(平成22年1月27日開催)における委員のご発言「日本政府が正しい情報を発信するということを考えた方がいいと思います。」 指摘を踏まえ、ホームページの多言語化、コンテンツの拡充(映像)等をはかっているところ。
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	○遺棄学兵器処理担当室ホームページ「有識者会議資料」(http://www.cao.go.jp/acw)
---------------------------	---

担当部局名	遺棄化学兵器処理担当室	作成責任者名	参事官(総括) 本田 晃一	政策評価実施時期	平成23年9月
-------	-------------	--------	---------------	----------	---------